

かやぶん博物館研修旅行 東京・神奈川編

～～研修旅行に参加して～～

私が“かやぶん”で働き始めた2006年は、ちょうど梅之木遺跡の調査が終わったばかりの頃でした。教育委員会の佐野さんに遺跡を案内してもらい、遺跡から分かる縄文時代の人々の暮らしぶりを聞き、驚いた記憶があります。その後、私は“かやぶん”の職を離れましたが、梅之木遺跡の国史跡への指定のニュースをととても嬉しく聞きました。

今回の研修旅行は、梅之木遺跡が史跡として整備された後、どのように公開し、また施設を運営していくか、その参考のために他県の事例を見学することが目的でした。3つの復元の様子を見学しました



が、遺跡ごとに特色があり、工夫や苦心された点を現地の方にお聞きすることができました。史跡をどのように復元し、

併設施設でどのような展示をするかは、責任重大なことだと思えます。見学者が、当時の人々の暮らしをイメージしやすいか、逆に、見学者に想像する余地を残し、イメージを植え付け過ぎていないか…。そして、その場所で、史跡と見学者を繋ぐ役割も、とても大切なものです。

北杜市を離れている身としては、遠くから応援し、見学に行くのを楽しみにするばかりですが、梅之木遺跡という、縄文人にとっても現代人にとっても、とても気持ちがいい場所に、多くの人々が訪れる史跡が誕生することを期待しています。



八木原美佳（内海）

～～縄文遺跡の相似性に驚く～～

最初研修会の案内を見たとき、「多摩丘陵に縄文遺跡があるの？」の疑問と同時に「平成狸大合戦」（スタジオジブリ作品）の自然破壊場面しか思い出せませんでした。元々歴史物が好きで、中学時代は古墳、サラリーマン時代は城址巡りでしたが、自宅から600mの所に梅之木遺跡が発掘され一気に関心時代が古くなりました。その後明野地区の発掘現場をしばしば見学しました。

今回の研修で特に興味深かったのは、遺跡保存がキチンとされていること、見学だけでなく各種の行事が開催され身近に縄文文化と触れられるよう工夫されていたことでした。

また、勝坂遺跡の相模川河岸段丘毎の時代区分は塩川沿いの神取面、浅尾面に相似していて“人は水と共にあること”を改めて感じました。



八ヶ岳から広がる“縄文眉月文化圏”説も唱えられているので、単体でなく他地区と連携した新しい取り組みで梅之木遺跡が注目されることを願う研修旅行でした。

津田博幸



今回の研修先

- ・東京都埋蔵文化財センター（多摩市）
- ・史跡勝坂遺跡公園（相模原市）
- ・史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（相模原市）

＝八代家のかまどでご飯を炊こう！＝

抜けるような青空の下、去る平成28年1月5日(土)に今年度の八代家住宅活用事業として、八代家のかまどを使って新米を炊いて食べるイベントを開催いたしました。



青竹を使い火吹き竹を自分たちで作ったり、薪を割ってみたりしながら、八代家にあるかまどに羽釜を乗せて、薪やごくもなどを入れて点火し炊き始めました。

自分たちの作った火吹き竹を実際に使ってみて、息がかかると炎が強くなることに驚き、また竹の長さによっては肺活量が必要で作業が大変になることなどを体感した様子でした。

囲炉裏ではみそ汁を作り、それらをぼかぼか陽気の縁側でいただきました。

食事の後は北杜市教育委員会の佐野さんに八代家をはじめとする古民家の構造についての解説や江戸時代の暮らしや名主さんの役割、そして八代家の裏にある穀蔵の構造や御廻米を江戸まで運んだ時の日記をもとに辿った行程などを分かりやすく解説していただきました。

皆さん大満足で帰路に就かれました。



＝第7回伝統芸能研修会開催＝

去る平成28年10月30日(日)に、明野町民俗芸能保存会による、第7回伝統芸能研修会「明野のお神楽」が開催されました。当法人は事務局としてお手伝いしました。



斎場清めの舞

今年度も明野町内にある7つの団体が一堂に会して舞を披露しました。

今回は「斎場清めの舞」と「乙おとの舞」

の二つの舞に関して、神社ごとの舞の違いをより分かり易くする為に、2団体に続けて舞ってもらいました。

さらに、この2つの舞が神楽奉納の最初と最後に舞われることから、『はじまりとおわりの舞』と題して、当法人の元学芸員内海美佳さんを講師にお招きし勉強会を開催しました。

明野町内外を問わず沢山の方にお越しいただきました。



乙の舞

＝会員募集＝

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動してくださる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ！

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000円

年会費 2,000円

かやぶんかわら版 第81号

平成29年3月10日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

ウェブサイト <http://kayabun.web.fc2.com/>

e-mail kayabun@hotmail.co.jp